

ようこそ神楽ファンの皆さまへ



私たちは、広島を中心とした中国山地の神楽並びに芸術に関する様々な活動を支援する特定非営利活動法人(略してNPO法人と言います。)を設立致しました。

このNPO法人の目的は、地域の人々がふるさとに自信と誇りを持ちながら充実した暮らしができる社会環境づくりを神楽と芸術の側面から支援するものです。

中国山地に伝わる神楽は、古き良き時代の優雅な「伝統を守る舞」と、新しい時代に対応する「創作的な舞」とがお互いに刺激しあいながら伝承されています。

とりわけ、若い世代に注目を浴びている「創作的な舞」は、ここ中国山地の神楽特有の形態と考えられます。また、芸術に関する分野でも、中国山地には、様々な分野の作家が居住し、活発な創作活動を展開しています。

このNPO法人は、神楽や芸術に携わる調査研究活動をはじめ、公演、シンポジウムや交流会などの催物の開催、インターネットを活用した情報交換の仕組みづくりを通して、幅広く活動していきます。

幸いにも、(株)マイクロソフト第4回NPO支援プログラム(2006年)のご支援を頂き、インターネット上に、神楽ポータルサイト「神楽の杜」を開設し、神楽情報を発信しています。

この10年と少し、日本は長く栄華をきわめた時代が崩壊(バブル崩壊)して、閉塞感漂う時代を迎えることになりました。高度産業社会の中で日本伝統の家族の役割も変容し、合わせて地域社会の人間関係も、企業における働く人と雇う人との関係も、また国と地域との関係さえも大きく崩れながら変化し、人々はモノの時代が終わったと感じるようになりました。

しかし、すでに戻る家族も地域社会も企業組織も、国家さえも、かつてのものではなく、手探りの中で21世紀を迎えることになりました。

その世紀末に、神楽が再び人々の心をとらえたということに多くの注目すべきものがあるような気になります。神楽は伝説と史実のはざまのものであるのです。

松本清張や梅原猛によると、神楽の世界は伝説であり推測であるから創造を求める世紀末のテーマとして人々の関心を集めていると言われていました。確かに、誰もが参加できる空想の、それでいて美しき日本の流れの中に登場する主人公たちの物語ではありません。

その日本の神楽が再び脚光を浴び、中国地方(石見出雲、備中、芸北)の神楽は大ブームで、とくに広島神楽が華々しくスポットライトを浴びています。

広島神楽は、いわゆる芸北地方と称される高田郡(現:安芸高田市)、山県郡において1947年頃にはじまった神楽競演大会がその起爆剤となったと言われていました。豊かな自然の他は、さして自慢するほどの観光資源もない芸北地域では、高度経済成長期には地域から都市へ働き手を奪われて、ムラの伝統的協働作業(行事)さえ行えなかった時代がありました。

しかし、この神楽競演大会は、出演する神楽団を審査し、順位を付けることにより、神楽団の活性化を図り、観客を魅了し続けてきたのです。

今日、広島県の西部(旧安芸の国)に属する山県、高田郡と広島市域において舞われる、いわゆる広島神楽には年間延べ100万人を超える神楽ファンが会場の屋内、屋外のライブを観賞されております。これはカーブ球場に集まるファンを超えて、あらゆる芸術、スポーツ文化の中で最もブレイクしたヒロシマのエネルギーマといえましょう。

舞う人がいて観る人がいる。演者と観者の間で、芸は更にみがかれる術をもちます。

私共NPO広島神楽芸術研究所は、古くて新しい広島の誇りを、かけがえのない子どもたちに伝承する運動のお手伝いをさせていただいています。どうぞ皆様のご参加をお待ちしています。

「煌いて花、華となれ」

2006年10月

特定非営利活動法人 広島神楽芸術研究所

理事長 日隈 健一

Microsoft

第4回NPO支援プログラム助成事業